



あこう通信

「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を創ろう

～いい顔 いい声 いい心～

発行：令和7年5月8日（木）NO6 文責：副校長 津田 幸一

学校 HP URL <http://www.nagasaki-city.ed.jp/kosakaki-e/index.html> （2次元コードからどうぞ）



GW が明けて いじめの早期発見・未然防止

GW が明け、子供たちが学校に戻ってきました。元気な笑顔を見ることができうれしくなりました。

さて、学級編成があり子供たちの人間関係が新しくなりました。ちょうど1か月たち、緊張感が薄れてくるこの5月は、いじめの発見が多い月になります。いじめの解決にあたっては、早期に発見し、組織的に対応することが、とても重要になります。

いじめの発生は学級にとって大きなピンチですが、逆に指導のチャンスでもあります。学級で起こったいじめに対し、しっかりと対応ができたならば、子供たちは学級担任を信頼するようにもなります。

「この先生にならば相談できる・解決できる」という安心感が次のいじめを生みにくくする未然防止にもつながっていきます。

早期解決の実績は、今後の学年・学級経営を安定させることでしょう。

本校では、いじめの早期発見に関わって、月初めに「生活アンケート」を実施しています。

「自分や周りの友達に困っていることはないか」ということを質問し、子供発信の情報キャッチャーとしています。また、アンケート後には、記載内容に応じて、学級担任と子供との個別相談（「教育相談」と呼んでいます）も実施しています。

子供の学校生活を直接見取っている学級担任は、このアンケートと教育相談、そして日々の観察から、いじめの芽を見つけ、解決に向けた対応をしています。

この情報キャッチャーに、ぜひご家庭の協力もいただけますと、より把握精度が高まると考えております。

ご家庭で、我が子の人間関係に関わることや、他のご家庭のお子様のことが困っているといった情報を、お子様づてに聞いた際は、ためらわず学校へお知らせください。

「早く見付け、早く解決する」

いじめは、その構造から、決して、子供が独力で解決できる事象ではありません。そして、時間がたつほどに、深刻化し複雑化していきます。決して、抱え込ませていけないのです。

学校と家庭でタッグを組んで、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいきます。

助けて！のサイン

学校で困ったことがあった時の子どもの反応。低学年であれば、すぐにご家族や教員に相談できます。ですから、把握から対応に要する時間は短くて済み、私たちも早期に解決できます。

しかし、年齢が上がっていくにつれ、だんだんと、困り事を大人に相談をしなくなっていきます。

特に高学年になると、学校の日常の出来事でさえも話さなくなるものです。

私たち大人は、自分も通ってきた道として、これを心の成長として理解しないといけません。

特に、いじめの被害であればなおさらです。

「心配を懸けたくない」という思いがあるからこそ、ご家族には相談できないものです。

「必ず解決してくれるか確証がもてない」という思いがあるからこそ、先生には相談できないものです。

そのような理由から、往々にして高学年のいじめについては発見が遅れることがあります。

被害にあっているのに一人で抱え込んでしまう。大人に相談することで起こりうる、明るくない未来を想像してしまうのでしょうか。「先生にチクったやろ」と言われる、「もっとひどくなるかもしれない」といった不安が、情報キャッチを遅らせてしまいます。

「助けて！」と言う勇氣。

人を頼るしなやかさ。

こういった資質も育てていくことが大切です。

<「いじめチェックリスト」について>

学校ホームページに「いじめ防止基本方針」をアップしています。その中にチェックリストを掲載しています。ぜひご活用ください。

本校の取組について

生活指導担当の山口です。

年度当初の職員会議でいじめの防止と早期発見に向けた以下4点の取組について、全職員で共通理解を行いました。

- ①いじめの未然防止のための取組
- ②早期発見の手立て
- ③発見したいじめへの対処
- ④いじめを受けた児童、いじめた児童、いじめを見ていた児童への指導・支援

「いじめは絶対に許さない」という強い決意のもと、①～④それぞれについて具体的な行動を明確化し、共通理解しております。

我々教職員も子供たちの変化に気を付けていきますが、家でしか見せない表情もあるかもしれません。もし何か気付いたことがあれば、遠慮なく学校までご連絡ください。

学校と家庭で力を合わせて子供たちの健やかな成長をサポートしていければと思います。

生活指導主任 山口悠太郎